

トップ インタビュー

清水建設（株）における情報システムの活用

本日は、今月号に「事例」を掲載していただいた清水建設（株）の情報システム本部副本部長に情報システム戦略などについて伺いました。

一早速ですが、御社の情報システムの基本方針と情報システム本部の役割をお聞かせください。



話し手 西澤 英人氏
清水建設（株）
情報システム本部副本部長

清水建設では、それまでも省力化のためのシステム作りはありましたが、芝浦本社ビルへの移転時に打ち出された新長期ビジョン「SHIMZ-21」において、「シミズ統合生産システム」の開発がはっきりとうたわれました。

全国主要都市に14支店、130余の営業所、2,000余の作業所を有する清水建設は、情報システムを通して会社がつながっていることを感じさせるネットワークの構築が重要と考えています。建設業界では、現場写真や施行図面などの工事の実績情報は、ノウハウ蓄積に重要です。ですから設計者から現場員にいたるまでこれらの情報を共有でき、また誰からもアクセスできるシステム作りを情報システム本部はめざしています。またそのために、本部の1人1人が半分ライン、半分スタッフと考え、常

に現場から遊離しないよう心掛けています。

一具体的には、どんな開発を行ってこられたのでしょうか。

まず現場の作業効率のために、COSMIC-PCADと呼ばれる統合施行支援システムを開発し、当社標準として現場への普及を進めました。これは、施行段階で利用する施行CADや積算システム、工程システムの統合共通化により、データの一元化、入力省略化、図面不整合のチェック、品質情報共有などを図ったものです。

一方、全社レベルの情報共有や部門レベルワークフローを、CABINETと呼ぶ電子プラットフォームで実現しました。このシステムは、図面や写真の送受信も可能な電子メールや電子掲示板、電子ファイリングされた情報の検索や承認機能も有しています。

一今後の情報システム開発の方向についてお聞かせください。

「シミズ統合生産システム」の完成が当面の目標です。建設業界における顧客第一主義とは、品質と価格とプロジェクト期間の短縮の3つの最適化にあります。これは営業、設計、見積り、調達、そして施行現場が一体となった生産性向上とプロジェクト期間短縮の取組みがあつてはじめて実現できるものです。

当社の場合は施行サイドに重点をおいて、業務の流れとは逆に、上流の設計業務と施行業務における生産設計とのシステム連携からまず手掛けました。今後は生産企画や施行計画との連携も展開し、コンカレントな建設生産プロセスの構築を図って

いく予定です。

長期的には、作業現場でのあらゆる業務に活用できるDB情報やフォームの一元化されたシステム作りを構築したいと思っています。また、小型高性能パソコンとCADの組合せにより、建設現場での様々なチェックなどに有効活用していきたいと考えています。

一そのような情報システムの構築に、昨今のオープン化動向がどう影響していますでしょうか。

メーカーには恐縮ですが、価格破壊は、システム部門には強い味方となっています（笑）。もはやパソコンは慣れる時代から使いこなす時代になりました。



聞き手 笠野 章
情報処理学会誌編集委員

情報システム本部が中心になって教育を実施していますが、毎年1000人以上の社員が受講し中堅層の底上げに一翼を担っています。

このように全社レベルの教育の強化と、先端技術開発やその組合せ技術の実践開発の推進が、オープン化時代における課題だと認識しています。

本日はどうもありがとうございました。

（平成7年10月実施）